

2024年08月13日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【引き続き「ジャクソンホール会議」に注目】

ドル/円が、最高値の162.00アラウンド(正確には、161.90-00水準)を付けたのが、先月の7月3日(2024年7月3日)だった。

+++++

先月(2024年7月5日)の米国雇用統計では、米非農業部門雇用者数(NFP)は、前月比+20.6万人で、市場予想の+19.0万人を上回った。

ただし、前回結果が+27.2万人から+21.8万人に下方修正された。

失業率は4.1%で、市場予想(4.0%)よりも悪化した。

+++++

そして、先月(2024年7月11日)の米国消費者物価指数(CPI)は+3.0%で、事前予想の+3.1%よりも低かった。

利下げ観測が強まり、マーケット(外国為替市場)は、「ドル売り円買い」に反応した。

+++++

この日(2024年7月11日)のCPI発表後、ニューヨーク市場で、財務省・日銀が「ドル売り円買い介入」を実施した模様。

ドル/円は、157円台ミドルに急落した。

+++++

その翌日(2024年7月12日)のPPI(米国生産者物価指数)の発表後、再度、財務省・日銀が「ドル売り円買い介入」を実施した模様。

ドル/円は、大きく急落して、時間が経過すると、152.00割れ(151円台後半)を付けています。

+++++

+++++

先月（2024年7月30日、31日）の日銀金融政策決定会合で、政策金利を0.25%に引き上げる、と決定した。

つまり、政策金利（＝無担保コール翌日物金利）を、「0-0.1%に誘導する」から、0.25%にする、と追加利上げを決定した。

+++++

そして、この会合で、国債買い入れ額を現在の月6兆円程度から、2026年1-3月に月3兆円に減らす方針を決めた。

原則、四半期ごとに4000億円ずつ減額する。

+++++

日銀金融政策決定会合の結果が発表されると、ドル／円は、大きく上下動を繰り返した。

そして、結局のところ、直近の安値（151円台後半）を更新して、大きく下落した。

+++++

+++++

先月（2024年7月30日、31日）のFOMCでは、政策金利据え置きを決定した。

8会合連続での政策金利据え置き。

パウエルFRB議長は、以下の旨を述べた。

「次回9月のFOMCで、政策金利引き下げの可能性はある」

+++++

このFOMC（2024年7月30日、31日）の発表後も、ドル／円は、下落を続けています。

+++++

+++++

今月上旬（2024年8月5日）に、ドル／円は、141円台ミドル（正確には、141.65-70水準）の安値を付けています。

++++
++++

振り返ると、7月上旬から、8月上旬の約1か月で、20円以上もドル／円が急落しています。

141円台の安値を付けてからは、148円台にまで、大きく反発（上昇）しましたが、最高値の162.00アラウンドと比べると、まだ、10円以上の「ドル安円高」水準と言えます。

++++
++++

さて、本日（2024年8月13日）は、お盆休みの真っ最中です。

市場参加者も少なく、積極的な雰囲気はありません。

こうなると、引き続き、今月（2024年8月）の「ジャクソンホール会議」に、注目しています。

++++

「ジャクソンホール会議」とは、米国のカンザスシティー連邦準備銀行が、ワイオミング州のジャクソンホールで、毎年夏に開く金融・経済シンポジウムのこと。

過去の例では、2010年8月に、当時のバーナンキFRB議長が、量的金融緩和第2弾（QE2）に踏み切ることを示唆する講演を行い、金融市場に影響を与えた。

++++

今年（2024年）の「ジャクソンホール会議」では、米国の今後の利下げに関して、何かしらの示唆があるのではないかと注目されるのは明らかでしょう。

今年（2024年）の「ジャクソンホール会議」は、来週の8月22日～24日に予定されています。

++++
++++

(2024年08月13日東京時間13:45記述)